

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0773100599		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 正寿苑		
所在地	〒963-4317 福島県田村市船引町東部台3丁目47番地 (電話) 0247-81-1711		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年3月17日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算	11.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	(4~10月) 9,000 円 (11~3月) 12,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (19,950 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.9歳	最低	66歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大方病院、さいす歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに建てられた2ユニットのホームである。新興住宅地として周辺整備が進められており、近隣にはスーパーマーケットや医院、ペット美容院などがあり「地域の人と支え合いながら」の運営理念を実践する環境が整っている。利用者も落ち着いてそれぞれの居場所でくつろぎながら過ごしている。運営推進会議も定期的を実施しており、双方向による実質的な会議が行なわれている。利用者が散歩の際交通事故防止のために靴のかかと部分に反射テープを貼るなどの、さり気ない安全対策は、委員からの提案・提供とのこと。ケアサービスについては、センター方式を活用し利用者の思いや意向の把握に努めておりケアプランに落とし込んでいるが、今後は現状に即して見直しを行なってほしい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の状態像の把握が十分でなかったことから、センター方式を一部取り入れながら利用者の思いや意向の把握等を行なうなど具体的な改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で取り組んでおり、各ユニットの責任者が総括的に評価しており、改善に向けて実施している。今後は、取り組みの事実を具体的に記載し、全員が共有しながら取り組むことを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議を定期的に2ヶ月に1回開催しており、実質的な会議が行なわれている。利用者の家族からの発言も多く、忌憚のない意見が出されている。今後は、自己評価や外部評価の内容を報告し助言を得るなどして、会議の積極的な活用を図ることとしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回定期的に家族に対し利用者の近況や健康状態などを必ず職員が手書きできめ細かに伝えている。併せて年3回程度は法人としての便りを送付しているが、今後は、事業所独自の便りを検討している。また、面会時にも詳細に近況を伝え、金銭の管理も出納帳に記載し、領収書を送付し適正に行なわれている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 神社のお祭りや行事に参加したり、地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、ボランティアを招いてクリスマス会を行ったりしている。また、地域内の集会所でホーム主催の新年会を老人会と協働で行ない、地域との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で協議して作成したホーム独自の理念「地域の人と支え合い充実した生活を送る」を基本として、日常的にサービスの向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で理念を意識して話し合い、毎日の記録を記載する際にも必ず目に触れるようにケース記録のファイルに理念を貼り付け実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	美容院や理髪店などが近隣にあり、利用者が馴染みの客になっている。神社のお祭りへの参加や地区の文化祭への作品出展、公民館を借りてホーム主催の新年会を行うなど積極的に交流を図っている。また、老人クラブ、スポーツ民謡などのボランティアの受け入れも行っており、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、運営者、管理者、職員全員が評価の意義を理解し、前回の評価についても内容を真摯に受け止め、サービスの記録様式や記入の仕方など工夫と努力による改善が認められる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催されており、特に家族から希望の多い事故報告については詳細に説明し、防止に努めている。今後は評価結果についての報告や、委員を通して近隣、消防署、警察などのネットワークをつくり、ホームの存在を一層アピールすることとしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、担当の職員が利用者の近況を手書きで伝え、また医療関連の情報の伝達や金銭出納帳のコピーや領収書等を家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を聞き取り、運営推進会議の席上で家族から忌憚のない意見を聞いている。また、法人として一括アンケートを実施し、内容を精査してサービスに活用している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階と2階の間で異動があったが、引き継ぎにあたっては、利用者のケース記録を丹念に読み込み理解しながら、利用者との馴染みの関係を大事にしている。一方で担当が代わることで利用者自身の違った面を発見することもあり、多面的な支援に役立てられるとのこと。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修、サービス計画作成研修などを計画・実施している。受講者は、研修報告書を詳細に記録し、職員会議で発表するなど情報の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム同士で体験入居をしたり、学習会を開催したりして情報交換に努めている。今後は外部のグループホームとの交流や利用者を同伴しての交流も計画してはどうか。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者の豊富な経験や生活の知恵などを教えてもらい、一緒に季節の行事の飾り物や食事作りに生かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、センター方式を活用し過去の生活歴から馴染んだ習慣や趣味などの把握をするとともに、家族の情報を得ながら、日常の暮らしの中で利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員と家族で話し合いを行い、課題を検討し課題分析をしながら、個別の介護計画に反映し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の援助内容に基づく支援が必要であるが、支援の事実がケース記録に十分記載されていないのは残念である。そのため、解決する具体的課題が見えてこない。介護計画の見直しも、利用者の状態変化等に対応した見直しがほしい。	○	支援内容の遂行状況や効果等を評価し、その際、利用者の意向や変化に気付いた場合、随時見直しを行なうなど柔軟な対応が必要である。そのためには、ケース記録に介護計画の援助内容を適切に記載することが重要である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が適切な医療を受診できるよう、家族や職員が支援し通院しており、利用者の状態により、協力医療機関の往診も受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の運営上、医療連携体制がないが、入居時に終末期の看取り等についての事前確認書を取り、また、重度化と終末期の対応方針を定め、家族とも度々話し合いをしている。今後は職員の研修を行い重度化や看取り対応についての共通の理解と対応を行なうこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを尊重し言動にも留意している。さらに、個人情報に関する誓約書を取り、法令順守の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、美容院等の外出等もできるだけ利用者の希望を取り入れ支援している。食事もゆっくりと一人で食べている方にも、さりげなく話しかけながら状態に合わせて、時間をかけながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れながら食材を購入し、本社の管理栄養士によるメニューを参考にしながら調理を工夫している。職員も利用者とは話を交わし一緒に楽しんで食事をしており、配膳や後片付けも利用者の協力を得ながら行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望を取り入れ支援している。入浴を好まない方には、足浴とオイルマッサージなども行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	お裁縫が好きな方には雑巾縫いをお願いしたり、得意な方の書が貼られている。布製の大きな手作りカレンダーは、利用者と職員の合作であり、今日が何日であるかが分かりやすいようには色を変える工夫がされている。役割をお願いした際は感謝の意を言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望をできるだけ取り入れ、散歩、買い物、ドライブなどに出かけたりしている。雨の日などは1・2階をゆっくり移動したりしながら交流と気分転換を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。玄関入り口が国道に面していることから、利用者一人ひとりの行動を把握し、さりげなく見守り、一緒に行動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行なっている。実施記録も詳細に記載されており、緊急時の連絡網を整備し緊急時対応の周知を図っている。備蓄については、まだ整備されていない。	○	災害時に備えた備蓄等が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための器具等を検討されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取を記載し職員全員で把握し、利用者の状態に応じて支援している。食材については、法人の管理栄養士のメニューを参考にし栄養管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドやカーテンにより外部からの光や温度の調節をしている。時節柄、花壇に植栽はなかったが、鉢植えや布や紙で手作りされた花が壁に飾られていて明るい雰囲気をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが自分に合った家具の配置や装飾をしていて、快適に暮らしている様子がうかがえた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム正寿苑

記入担当者名 吉田 正三

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。